

石川県防災学習プログラム（7／29バス見学会）

このプログラムは「能登でのフィールドワークを通じた防災学習」として県教委が企画し、各高校で特色を加え、日程を決め、バスで能登を訪問するツアーで、本校では生徒19名、教員8名が参加しました。昨年1月の震災、9月の豪雨災害で大きな被害を受けた能登を訪れ、自然の驚異と災害の現実を見たり、復興への道のりについて聞いたりして、明日起こるかもしれない災害への備えを学ぶ貴重な機会となりました。

＜日程＞ 7月29日（火）

7：30学校出発→10：00輪島朝市通り、輪島ワイプラザ（出張朝市見学）

→11：00輪島高校校舎見学、輪島高校生徒と交流、昼食→13：30門前総持寺祖院見学

→15：00鹿磯漁港、黒磯地区（旧角海家）見学→18：00学校到着

〔学校～輪島〕



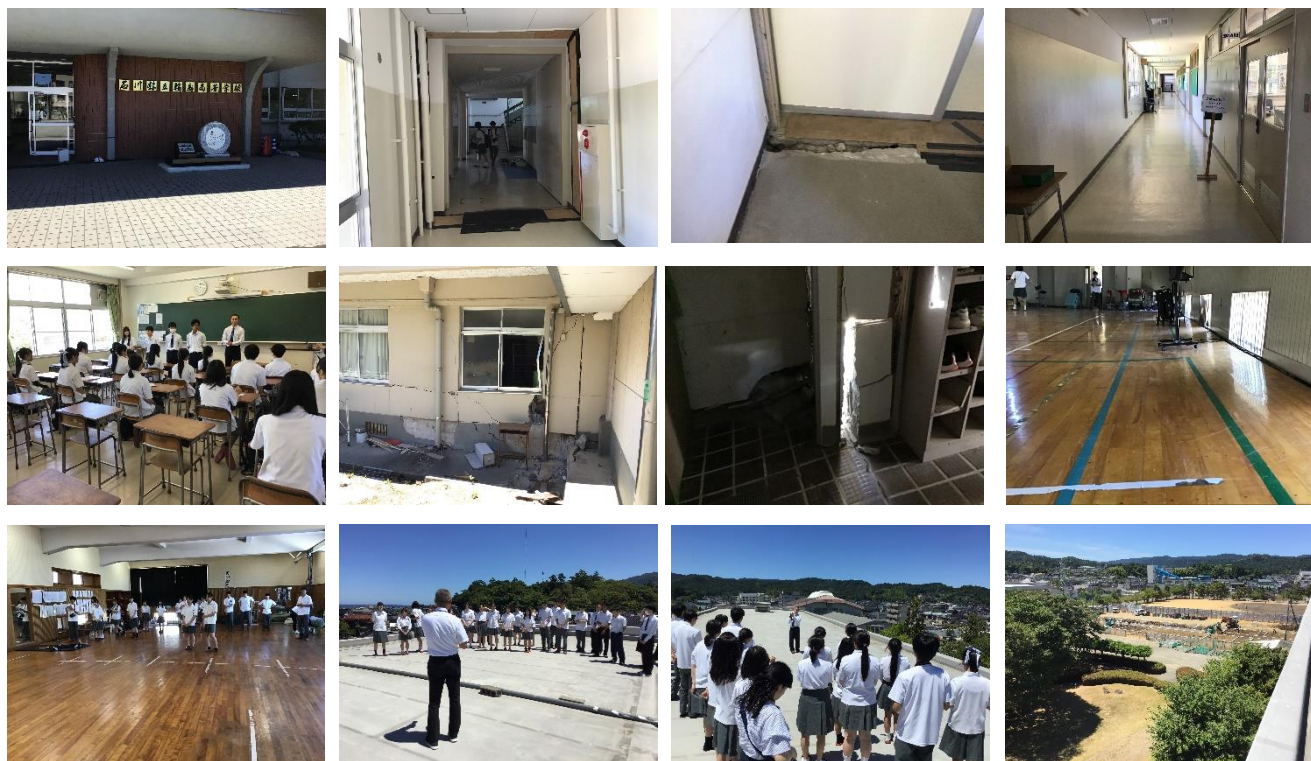
★西山PA（下り）は建物が壊れており営業していなかった。道中には、まだ屋根にブルーシートがかけられている住宅が多々あった。山が崩れている所や電柱が傾いている所、倒壊している建物も少なくなかった。

〔輪島朝市〕



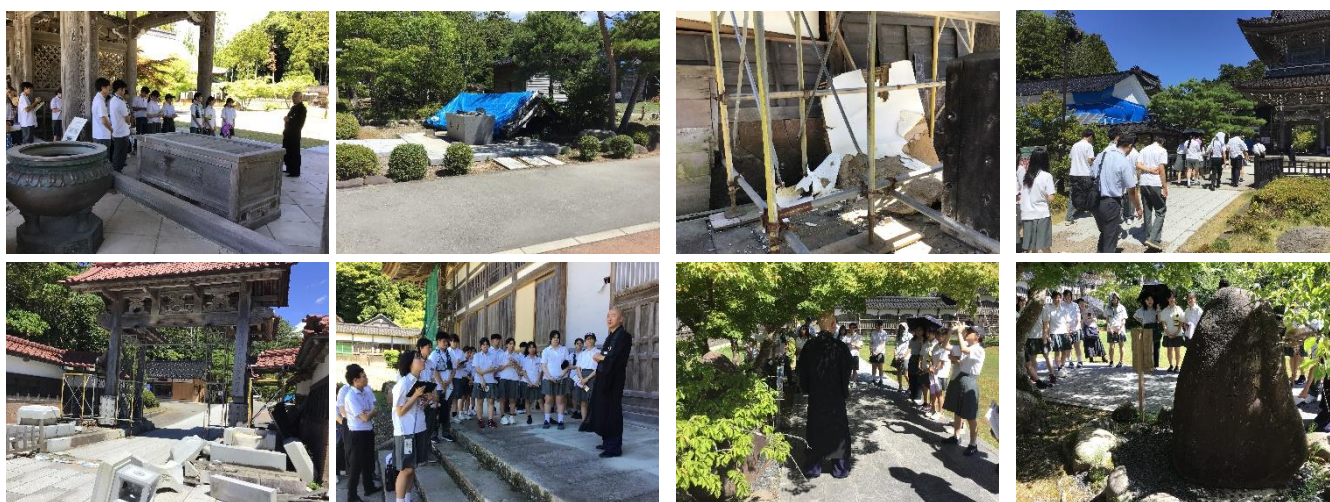
★朝市組合の組合長富水さんの案内で、5万平方メートルが更地となってしまった朝市通りで震災前の朝市の活気や現在の朝市、そして今後について話を聞いた。現在は近くの輪島ワイプラザ内で出張朝市として約40名の方が出店している。店を見たり、朝市のおばちゃんと話をしたりして、様々な気持ちを感じ取った。富水さんの「この風景を目に焼き付け、帰ってから、家の人や周りの友達に伝えてほしい」という言葉が印象に残った。

[輪島高校]



★輪島高校では、輪島の生徒5人とミニ交流会を行った。廊下は微妙に傾いており、しばらく歩いていると平衡感覚がおかしくなる感じがした。教頭の高橋先生にも校舎案内と説明をしてもらった。「元の教室棟は今でも使えず、別の棟に移して授業を行っている。まだ崩れている箇所があり、第一体育館の床は両サイドが盛り上がり、第2体育館の床は逆に真ん中が盛り上がっている。体育や部活動は注意しながら行っている。今、ようやく仮校舎を建てることになり、工事の真っ最中。グラウンドには高いネットがなくなり、野球部はバッティング練習ができない。」などの話があった。生徒達は高橋先生の「同じ高校生が苦難の中、高校生活を送っていることを他の友達にも伝えてほしい」という言葉を真剣に聞いていた。

[門前町総持寺祖院]



★総持寺では、至る所に震災のあとが残っていた。僧の高島さんに案内と説明をもらい、平成19年に起きた地震からの復興の道のりや、復興後、3年足らずで再度被災したことや僧の修行が中断していることなど、丁寧な説明を受けた。『復興の種をまいた』だけではダメ。必要なときに水をやり、育てていかねばならない。若い高校生がその一翼を担ってくれるとありがたい。」という言葉が心に響いた。

〔鹿磯漁港・黒島地区〕



★鹿磯漁港・黒島地区では、地区のガイド柴田さんに案内をしてもらった。地震によって、地形が隆起し、海岸線が大きく変わった様子を見ることができた。写真にあるように、以前、海底だった所が露出し、テトラポットや岸壁が波打ち際の遥か後方になるくらい砂浜が何十メートルも大きくなったとのことだった。貝殻がへばりついた堤防が高く露出し、5、6メートルの隆起の様子が実感できた。また、北前船で繁栄した旧角海家等の蔵がいくつか倒壊し、町の様子も変わったとのことだった。特別に、黒島天領北前船資料館内も案内してもらい、展示してある曳山2台について柴田さんは「今年は8月に祭りをする。この曳山も使用する。気持ちは負けない。」と話したのが印象的だった。

〔生徒の感想〕

能登の復興は進んでいると聞いていたが、実際に見て、聞いてみて、まだまだだと感じた。

〔教員の感想〕

百聞は一見にしかず。聞くより自分の目で見るのが大切だと思った。

能登の人は高校生も含め、過酷な状況にも負けてはいないと感じた。

〔まとめ〕

輪島の朝市通りや多くの仮設住宅など、かつての風景とは全く変わってしまい、寂しい気持ちと不安な気持ちで心が痛くなりました。しかし、能登に住む人はそれに負けず、復興に向けて進んでいこうとしていることを強く感じました。まだまだ完全復興にはほど遠いですが、見たり聞いたりしたことを周りの人に伝え、自分たちができることをしていきたいと思いました。